

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月(2時間)	2	表紙裏①～2	知りたいな！手書き文字のよさ どんなときに手書きで書く？	手書き文字のよさを知り、書写の学習への意欲を高めることができる。	○教科書①～2ページの写真を 見て、手書き文字がどのような 場面で使われているかについて、 話し合う。 ○文字を手書きすることのよさ について考え、話し合う。 ○グループごとに発表する。	アイウ	B ：手書き文字の使用場面や意味について話し合っている。 A ：手書き文字の使用場面や意味について進んで話し合っている。 支援 ：教科書の写真以外でも、校外の手書き文字を共有して、興味をもてるようにする。	B ：日常生活における手書き文字の使用場面や意味について考えている。 A ：日常生活における手書き文字の使用場面や意味についてよく考えている。 支援 ：教科書を参照しながら、他教科の日常生活の文字を書く場面を生かせることを説明する。	B ：手書きの大切さを知り、これからの書写学習に対する意欲をもっている。 A ：手書きの大切さを理解し、これからの書写学習に積極的に取り組む意欲をもっている。 支援 ：書写学習が生かせる場面で、意識的に声がけをする。
		3～5	目次 四年生で学習すること 学習の進め方	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○1年間の学習内容を知り、見通しをもつ。	アイウ	B ：1年間のめあてや学習内容について知っている。 A ：1年間のめあてや学習内容について理解している。 支援 ：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		B ：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。 A ：1年間の学習内容を理解し、積極的に書写学習に取り組む意欲をもっている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
		6～14	1 はじめの学習 1 毛筆用具の名前と、置き方やあつかい方 2 よい姿勢や筆の持ち方 3 3年生で学習したこと ■点画の種類 4 あとかたづけ	○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常によい姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。 ○3年生で学習したことを確かめることができる。	○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書12・13ページを参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について確かめる。 ○筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、いろいろな線を毛筆で書く。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を毛筆で書く。 ○自分のめあてを設定して練習する。 ○自分のめあてに沿った「点画の種類」をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。	アイウ	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。 3年生で学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。 A ：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。 3年生で学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。 支援 ：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さしを考えている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良さしを判断できる。 筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。 支援 ：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	B ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。 他の書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 A ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。 常によい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 支援 ：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写以外の学習でも気をつけるように呼びかける。
5月(2～3時間)	2～3	15～17	2 点画の筆使い『花』	○点画の筆使いを確かめることができる。 ○点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○点画の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『花』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、自分のめあてを設定する。 ○教科書12・13ページを参照して基本点画の筆使いを確かめる。 ○片仮名の「ヒ」との違いや点画の書き方に気をつけて、練習する。 ○『花』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから筆使いと点画の書き方に気をつける漢字を探し、硬筆で書く。	アウ	B ：点画の筆使いについて理解している。 点画の筆使いに気をつけて書いている。 A ：点画の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：他の文字の例を見ることによって、点画の筆使いを確かめられるようにする。それぞれの課題解決ができるような練習用紙を使って、書きにくい部分が解決できるよはたらきかける。	B ：点画の筆使いについて考えている。 A ：点画の筆使いの良さしを考えている。 支援 ：穂先の向きと穂先の通り道はどうなっているか説明できるようにする。空書することで、それぞれの筆使いを確かめるようにする。	B ：点画の筆使いに気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、点画の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に点画の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：水書板などを使って、「はらい」「曲がり」などの筆使いを確かめられるようにする。
		18・19	【レッツ・トライ】 発表しよう一学習内よ うをまとめる	○横書きの書き方（行頭のそろえ方、字間、行間）を理解して、文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる。 ○他教科の学習のなかで、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○読み手に内容がよく伝わる発表資料にするにはどうしたらよいか話し合う。 ○横書きで読みやすく書くためのポイントを理解する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて発表資料の一部を鉛筆で練習する。 ○書いたものを自己評価してから相互評価をする。	アイ	B ：横書きの書き方と配列について理解している。 横書きの書き方を理解して、配列に気をつけて書いている。 A ：横書きの書き方をよく理解して、配列の整え方について把握している。 横書きの書き方を理解して、配列よく書いている。 支援 ：簡易書きを書く際の行頭のあげ方や字間など、具体的な視点をあげて呼びかける。補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：読み手に内容がよく伝わる発表資料の作成方法について話し合っている。 A ：読み手に内容がよく伝わる発表資料の作成方法について、積極的に話し合っている。 支援 ：どのように書いたら相手に伝わりやすいか、具体的な場面について投げかけるようにする。	B ：書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて書こうとしている。 A ：書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて積極的に書こうとしている。 支援 ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。書写以外の学習でも、相手意識をもって配列に気をつけて書くよう呼びかける。
6月(3時間)	2	20・21	3 点画のせし方と間かく『日記』	○点画のせし方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○横画の間かくに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○点画のせし方と横画の間かくを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『日記』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○点画のせし方と横画の間かくに気をつけて、練習する。 ○『日記』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから点画のせし方と横画の間かくに気をつけて、硬筆で書く。	アウ	B ：点画のせし方と横画の間かくについて理解している。 点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書いている。 A ：点画のせし方と横画の間かくについてよく理解し、字形の整え方を把握している。 点画のせし方と横画の間かくに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：他の文字の例を見ることによって、点画のせし方と横画の間かくを確かめられるようにする。	B ：点画のせし方と横画の間かくについて考えている。 A ：点画のせし方と横画の間かくについてよく考えている。 支援 ：分解文字などを使って、点画のせし方と横画の間かくが視覚的に確かめられるようにする。	B ：点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：点画のせし方と横画の間かくに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：学習した以外の文字や硬筆でも、点画のせし方と横画の間かくに気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・7月(3～4時間)	3～4	22・23	4 筆順と字形『左右』	○筆順と字形の関係を理解することができる。 ○筆順に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○筆順と字形を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『左右』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○正しい筆順と点画の長さの違いに気をつけて、練習する。 ○『左右』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから筆順と字形に気をつける漢字を探して、硬筆で書く。	アウ	B: 筆順と字形との関係について理解している。 筆順と字形に気をつけて書いている。 A: 筆順と字形との関係についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 正しい筆順で、字形を整えて書いている。 支援: 他の文字の例を見ることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。 画の長さや外形について、具体的に説明できるようにする。	B: 筆順と字形との関係について考えている。 A: 筆順と字形との関係について、よく考えている。 支援: 分解文字などを使って、筆順と字形が確かめられるようにする。	B: 筆順と字形に気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 筆順と字形に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 字源を説明することで、筆順と字形に対する関心を高められるようにする。 学習した以外の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		24・25	〈こう筆の学習〉 筆順と字形	○筆順の原則を理解することができる。 ○筆順に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○筆順の大ききまりと、その他のきまりを確かめて『景』『然』『信』『類』を硬筆で試書する。 ○試書と比べて筆順について話し合う。 ○正しい筆順と筆順の原則を理解する。 ○筆順に気をつけて、教材文字を書く。 ○筆順を誤りやすい『兆』『機』『飛』『成』を書く。 ○筆順と字形に気をつけて硬筆でまとめ書きする。	ア	B: 筆順の原則について理解している。 筆順と字形に気をつけて書いている。 A: 筆順の原則についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 正しい筆順で、字形を整えて書いている。 支援: いろいろな文字の例にあてはめて考えることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。 字形が整っていない文字について、筆順を確かめられるようにする。	B: 筆順の原則について考えている。 A: 筆順の原則についてよく考えている。 なぜ筆順どおりに書くことが大切なのか、考えている。 支援: 教科書の図版などを使って、筆順の原則が確かめられるようにする。	B: 筆順と字形に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 他の書写場面でも、筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A: 筆順と字形に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。 常に筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援: 文字の中のどの部分に筆順の原則が使われているか説明することで、筆順に対する関心を高める。 書写の授業以外でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
9月(4時間)	2	26・27	5 ひらがなの筆使い『はす』	○「結び」の筆使いを理解することができる。 ○「結び」の筆使いや形の違いに気をつけて書くことができる。 ○「結び」の形の違いを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『はす』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「結び」の筆使いや字形、穂先の動きに気をつけて、練習する。 ○『はす』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末の「ひらがな表」などから、字形に気をつける文字を探して、硬筆で書く。	アウ	B: 「結び」の筆使いについて理解している。 「結び」の筆使いに気をつけて書いている。 A: 横の「結び」と縦の「結び」の筆使いの違いや字形について、よく理解している。 「結び」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 拡大文字などを使って、筆使いや形が視覚的に確かめられるようにする。 教科書の図版を参照しながら縦の結びと横の結びの違いについて説明し、理解できるようにする。	B: 「結び」の筆使いについて考えている。 A: 「結び」の筆使いの良さあしを考えている。 支援: 朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B: 「結び」の筆使いに気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、「結び」の字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 「結び」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に縦・横の「結び」の字形の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 拡大文字などを使って、「結び」の筆使いや形に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「結び」の形の違いに気をつけて書くよう呼びかける。
		28・29	【レッツ・トライ】 ノート—理科のノート	○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。 ○書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意識をもち、工夫して書こうとすることができる。	○学級内でまとめ方がわかりやすいノートの例を数点用意して、工夫されている点を話し合う。 ○話し合った内容を発表し、学級で共有する。 ○学習したことを生かして、次時のノートをとる。	アイ	B: 学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。 学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。 A: 学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく理解している。 学習内容が理解しやすいように、よく工夫してノートをまとめている。 支援: 簡条書きで書く際の行頭のあけ方や余白のとり方など、具体的な視点をあげて呼びかける。 自分の普段のノートを見直して、わかりにくい点はないか確かめるようにする。	B: 学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。 A: 学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について、よく考えている。 支援: どのように書いたら内容が理解しやすいか、具体的な書き方について例示するようにする。	B: 書写で学習した内容を、他教科での学習に生かしていく意欲をもっている。 書写以外の学習場面でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 A: 書写で学習した内容を、他教科での学習に生かし、積極的に書こうとする意欲をもっている。 常にわかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 支援: 書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。 書写以外の学習でも、わかりやすい書き表し方を工夫して書くよう呼びかける。
		30・31	【レッツ・トライ】 はがき—けい老の日はがき	○はがきの形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書くことができる。 ○文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○はがきを書く時の手順やはがきの形式、はがきの裏面の書き方を確かめる。 ○教科書を見て文字の大きさや行の中心はどうなっているか話し合う。 ○都道府県の書き方を知り、練習する。 ○メモをもとにはがきを書いてみる。 ○学習したことができているか自己評価する。	アイ	B: 文字の大きさや行の中心の揃え方について理解している。 はがきの形式に従って、文字の大きさに気をつけて書いている。 A: 文字の大きさや行の中心の揃え方について、よく理解している。 はがきの形式に従って、文字の大きさと行の中心に気をつけて書いている。 支援: 教科書の紙面を参照しながら、はがきの書式について確かめられるようにする。 はがきに対して文字が大きすぎたり小さすぎたりするように、教科書を見ながら確かめられるようにする。	B: はがきの形式に従って丁寧に書く方法について考えている。 A: はがきの書式に従って、文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。 支援: 相手の名前を上位置に書くことや、はがきの中央に大きく書くのは、相手を敬う気持ちが表れていることを説明する。	B: はがきの形式を理解し、丁寧に書こうとしている。 A: はがきの形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書こうとしている。 支援: 実際のはがきの例を提示することで関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10・11月 (7～8時間)	2	32・33	6 文字の組み立て方 (左右) 『土地』	○「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化を理解することができる。 ○「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「へん」の幅と点画の形を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『土地』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「へん」と「つくり」の組み立て方について確認し、練習する。 ○『土地』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから左右の組み立て方に気をつける漢字を探して、硬筆で書く。	アウ	B: 「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化について理解している。「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書いている。 A: 「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 他の文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみるようにする。	B: 「へん」と「つくり」の組み立て方について考えている。 A: 「へん」と「つくり」の組み立て方の良さあしを考えている。 支援: 拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B: 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書こうとしている。他の文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
			7 文字の組み立て方 (上下) 『竹笛』	○上の部分の高さと形の変化を理解することができる。 ○上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○上下の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『竹笛』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「たけかんむり」と「由」の組み立て方を確認し、練習する。 ○『竹笛』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから上下の組み立て方に気をつける漢字を探して、硬筆で書く。	アウ	B: 上の部分と下の部分の高さの違いと点画の形の変化について理解している。上下の組み立て方に気をつけて書いている。 A: 上の部分と下の部分の高さの違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 他の文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみるようにする。	B: 上下の組み立て方について考えている。 A: 上下の組み立て方の良さあしを考えている。 支援: 拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B: 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書こうとしている。他の文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
	3～4	36・37	文字の組み立て方(選たく) ①左右の組み立て方 『木材』 ②上下の組み立て方 『岩山』	○自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、めあてに気をつけて書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解して、字形を整えて書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○自分の選んだ教材文字を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○幅や高さ、形の変化について確認し、課題別に練習する。 ○自分の選んだ教材文字をまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。	アウ	B: 左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解している。左右・上下の組み立て方に気をつけて書いている。 A: 左右・上下の組み立て方(幅や高さのとり方)を理解し、字形を把握している。左右・上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 点画のゆずり合いや、自分の課題が視覚的に確かめられるようにする。点画のゆずり合いが確認できるようにする。	B: 自分のめあてに適した教材を選択している。幅や高さ、形がどう変わっているか、考えている。 A: 自分のめあてに適した教材を、適切に選択している。幅や高さ、形がどう変わっているか、よく考えている。 支援: それぞれの教材文字は、幅や高さ、形がどう変わるのか、同じ課題の友達と考えることができるようにする。	B: 自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択しようとしている。他の文字や硬筆でも、自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書こうとしている。 A: 自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、めあてに気をつけて書こうとしている。常に自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書こうとしている。 支援: 自分の課題はどのようなところにあるか、前時を振り返り確かめられるようにする。学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて、主体的に書くよう呼びかける。
		38	〈こう筆の学習〉 文字の組み立て方	○左右・上下の組み立て方と点画の変化について理解することができる。 ○左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方で構成される漢字の、点画の変化を見つめる活動について、意欲的に取り組むことができる。	○『説』『湖』『電』を硬筆で試書する。 ○それぞれの組み立て方がどのようなになっているか考え、基準を確かめる。 ○文字の組み立て方に気をつけて練習する。 ○硬筆でまとめ書きをする。 ○巻末漢字表から、左右・上下の組み立て方で構成されている漢字を探す。	ア	B: 左右の幅の違い、上下の高さの違いと点画の変化について理解している。左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書いている。 A: 左右・上下の組み立て方と点画の変化についてよく理解し、字形を把握している。左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方と点画の変化が視覚的に理解できるようにする。左右の幅や上下の高さと点画の変化について意識できるようにする。	B: 左右の幅、上下の高さ、点画の変化について考えている。 A: 左右・上下の組み立て方、点画の変化の良さあしを考えている。 支援: 毛筆文字などを使って、組み立て方や幅、点画の変化が確かめられるようにする。	B: 左右・上下の組み立て方のある漢字を書く活動に取り組もうとしている。他の文字でも左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 左右・上下の組み立て方のある漢字を書く活動に、意欲をもって取り組もうとしている。常に左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書こうとする意欲をもっている。 支援: 漢字合わせクイズを行ったり、部首のものと字について調べたりすることで、関心を高めるようにする。学習した以外の文字でも、組み立て方と点画の変化に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月 (5～6時間)	1	39	【レッツ・トライ】 文化 一 短歌	○文字の大きさと配列について理解することができる。 ○文字の大きさと行の中心に気をつけて、配列を整えて書くことができる。	○教科書の短歌・俳句を硬筆で書く。 ○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。 ○練習用紙を選び、文字の大きさと行の中心に気をつけて練習する。 ○試書と比べて自己評価する。 ○他の俳句や短歌でも、配列を整えて書くことと読みやすいことを知る。	アイ	B: 文字の大きさと配列について理解している。文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A: 文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援: 文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B: 文字の大きさと配列について考えている。 A: 文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援: 試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B: 文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。書写以外の学習場面でも、文字の大きさと配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A: 文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。常に文字の大きさと配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援: 文字の大きさと配列に着目するよう呼びかける。書写以外の学習でも、文字の大きさと配列に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	3～4	50・51、53～56	書きぞめ 『元氣』 『美しい空』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや中心に気をつけて、字形を整えて書くことができる。	○書きぞめの由来を確認する。 ○書きぞめの姿勢や小筆の持ち方を確かめる。 ○『元氣』（または『美しい空』）を試書する。 ○試書と教材文字を比べて、自分のめあてを設定する。 ○教科書12・13ページを参照しながら、基本点画の筆使いを確かめる。 ○基本点画に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて、自己評価する。	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や持ち方、筆使いについて理解している。 これまで学習した筆使いや文字の大きさに気をつけて書いている。 A ：書きぞめの姿勢や持ち方、筆使いについて、よく理解している。 これまで学習した筆使いや文字の大きさに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：今まで学習した筆使いについて、点画の名称を確認しながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B ：書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 他の学習の書写場面でも、よい姿勢や持ち方で、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに関心をもち、積極的に書こうとしている。 常により姿勢や持ち方で、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 書写以外の学習でも、姿勢や持ち方、筆使いに気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	40	【知りたい 文字の世界】 さまざまなかるた	○さまざまなかるたについて知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○自分が住む地域のかかるたや、さまざまなかるたについて調べる。 ○かるたの特徴など、気がついたことを話し合う。 ○話し合ったことを発表する。	アイ			B ：さまざまなかるたについて調べようとしている。 A ：さまざまなかるたについて、積極的に調べようとしている。 支援 ：学校にあるさまざまなかるたを例示することで、関心を高めるようにする。
	1	41	【レッツ・トライ】 かるた一ぼうさいかるたを作る	○これまで学習した内容を生かして、ぼうさいかるたの文字を書くことができる。 ○用紙全体に対する文字の大きさや配列を考えて書くことができる。	○ワークシートに防災かるたの文章を考えて書く。 ○教科書を見ながら、読みやすい文字の大きさや配列を考えて下書きをする。 ○自分のめあてを設定する。 ○かるたの用紙に書き、防災かるたを完成させる。 ○自己評価シートを記入し、自己評価する。	アイ	B ：読みやすい文字の大きさや配列を理解している。 文字の大きさや配列に気をつけて防災かるたを書いている。 A ：読みやすい文字の大きさや配列について、よく理解している。 文字の大きさや配列を整えて、防災かるたを書いている。 支援 ：行が曲がってしまう場合は鉛筆で薄く中心線を書いたり、文字を書く位置に丸で印をつけたりするよう呼びかける。	B ：読みやすい文字の大きさや配列について考えている。 A ：読みやすい文字の大きさや配列について、よく考えている。 支援 ：平仮名は漢字よりやや小さく書くこと、頭文字は大きく書くことなどを、具体的に説明する。	B ：文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：文字の大きさと配列に着目するよう呼びかける。 書写以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
2・3月(4～5時間)	4～5	42～45	8 学習のまとめ 『平和』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、めあてに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『平和』を硬筆や毛筆で試書する。 ○これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○左右の組み立て方や、はらいの方向の違いを理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『平和』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。(毛筆) ○縦罫線の用紙に『ごんぎつね』の一部を硬筆で試書する。 ○中心に線を引いて自己修正する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて、まとめ書きをする。(硬筆)	アイウ	B ：これまで学習した字形の整え方について理解している。 これまで学習したことを生かして、字形の整え方に気をつけて書いている。 A ：これまで学習した字形の整え方について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、字形を整えて書いている。 支援 ：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 字形の整え方の要点や筆使いなどを具体的に示すようにする。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：教材文字と比べて修正することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、積極的に書こうとしている。 常に字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：1年間の学習事項や筆使いなどが確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		46	【知っておこう】 手紙—学習発表会の案内の手紙	○手紙の形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○教科書を見て、手紙の書き方と封筒の書き方について確かめる。	アイ	B ：手紙の書き方について理解している。 A ：手紙の書き方について、よく理解している。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしないように、教科書を見ながら確かめられるようにする。		
		47～49	【書いて 伝え合おう】 新聞—学級新聞を作ろう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書の例を見て、読みやすい紙面構成の工夫を話し合い、記事の位置と大きさを決める。 ○今まで学習したことを振り返り、文字の大きさや配列について想起する。 ○記事の下書きをする。 ○筆記具の効果について話し合い、適切な筆記具を選択する。 ○新聞を作成する。	アイ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記具を工夫したりしている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記具を工夫したりして、読みやすく書き表している。 支援 ：配列は整っているか、筆記具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を意識して、新聞を見直している。 A ：読みやすく書くための基準を意識して、新聞を見直したり工夫したりしている。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 他の学習場面でも、読みやすく書くために工夫していく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも進んで生かしていく意欲をもっている。 常に読みやすく書くために工夫していく意欲をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさを考えて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
適時		52	【知っておこう】 メモダム見学での聞き取りメモ	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て、メモを取るとき書き方について確かめる。	アイ	<p>B:メモの取り方について理解している。</p> <p>A:メモの取り方について、よく理解している。</p> <p>支援:教科書の紙面を参照しながら、メモの取り方について確かめられるようにする。</p>		
		57～60	【漢字表】 四年生で学習する漢字 三年生で学習した漢字	<p>○3年生で学習した字形の整え方、筆順などを確かめることができる。</p> <p>○4年生で学習した字形の整え方、筆順などを確かめることができる。</p> <p>○巻末漢字表を活用した漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。</p>	<p>○筆順のきまりを確かめる。</p> <p>○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。</p> <p>○文字の組み立て方の観点から、巻末漢字表の文字を分類し、印を書き込む。</p> <p>○友達と見せ合い、正しく書けたか相互評価する。</p>	アイ	<p>B:同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて理解している。</p> <p>A:同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて、よく理解している。</p> <p>支援:これまで学習した基本、点画などの内容を振り返り、確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。</p>	<p>B:これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。</p> <p>同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて考えている。</p> <p>A:これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。</p> <p>同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて判断している。</p> <p>支援:教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。</p>	<p>B:巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて、関心を高めている。</p> <p>書写以外の学習でも、筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p> <p>A:巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて関心を高め、進んで取り組もうとしている。</p> <p>常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。</p>
		61	【ひらがな表】 【かたかな表】 【筆記具の特ちょう】	○平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめることができる。	○「ひらがな表」「かたかな表」を見て、平仮名と片仮名の筆順や字形を確かめる。 ○字形がうまくとれない文字について、重点的に練習する。	アイウ	<p>B:平仮名、片仮名の筆順や字形について理解している。</p> <p>A:平仮名、片仮名の筆順や字形について、よく理解している。</p> <p>支援:ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。</p>		<p>B:平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめている。</p> <p>常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。</p> <p>A:平仮名、片仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。</p> <p>常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。</p> <p>支援:まちがえやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。</p>